

【アーチェリー】

世界ユース選手権大会

第17回世界ユースアーチェリー選手権大会が8月8日から16日まで、ポーランドのヴロツワフで開催され、渋谷樹里さんが日本代表チームとして出場しました。

女子団体では渋谷さんが昨年度アカデミーを修了した園田稚さん・渡邊麻央さんとチームを組み、悲願の金メダルを獲得しました。個人トーナメントでは、1回戦を突破した後、2回戦でインドの選手(本大会優勝選手)と対戦し、最初に2点、2点と先取したものの、後半で逆転されて2回戦敗退となりました。

- <渋谷さんコメント> -

団体で優勝することができましたが、個人的には点数に満足いかず、ミスも多かったです。ですが、アカデミーの先輩2人がいたから、アドバイスをもらったり、コミュニケーションをとりながら試合ができ、いい雰囲気でした。試合では、表情が硬いと言われていましたが、先輩達にも声をかけられ、笑顔でいられた試合でした。

世界大会の決勝を経験できたことが収穫です。あの緊張感の中でパフォーマンスを出すという難しさを感じ、沢山の課題をみつめることができた試合でした。今まで以上に練習を積み、大きな大会でこそ自分のパフォーマンスができるようつなげていきたいです。また、次の選考会でシニアのナショナルチームに入って、個人でも結果を残せるように頑張ります。



写真左から渋谷さん、修了生の園田さん、渡邊さん

【フェンシング】

全日本選手権大会

9月16日、第74回全日本フェンシング選手権大会が駒沢オリンピック公園体育館(東京都)で開催され、高校3年生の

坪颯登君が出場しました。

トーナメント形式で行われた試合の1回戦はシードで進み、2回戦、3回戦と勝ち進んだ坪君でしたが、4回戦目に東京2020大会に出場した吉田健人選手と対戦し、9-15で敗退し、最終順位を7位としました。

全日本選手権大会は、2021-2022シーズンのシニアカテゴリーにおける国内ランキングに大きく影響する大会であり、坪君にとって過去最高ランクとなる7位を現時点でキープできたことで、日本代表選手として国際大会への出場に大きく近づけました。しかしながら、より高いパフォーマンスを発揮することのできる坪君にとって7位は悔しい結果ともなりました。

アカデミー生としての生活も残り半年となる中で、本格的なシニアカテゴリーでの活動に向けて更なる成長が楽しみです。



全日本選手権大会の坪君

【ボートほか】

国民体育大会予選

「ときめいて人 かがやいて未来 2021」をスローガンとした第76回国民体育大会(三重とこわか国体)の予選が7月から8月にかけて行われました。

ボートでは、瀬川咲新さんと井上幸乃さんが1位で通過、若林はる帆さんが2位で通過し、それぞれ本選への出場権を獲得しました。

レスリングでは、フリースタイル種目で高橋海大君、ガレダギ敬一君、菅野煌大君がそれぞれ1位で通過し、坂本由宇さんが3位でした。

ライフル射撃では、山田咲来さんが予選を通過しました。第76回国民体育大会(三重とこわか国体)は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、8月26日に中止が決定されました。非常に残念ではありますが、国内外の多くの大会が中止となっている中で、この国民体育大会予選での経験を次に生かしてもらいたいと思います。

【レスリングほか】

高等学校総合体育大会

「走れ北信越の大地をとべ北信越の大空へ」をスローガンに7月24日から8月24日まで、北信越を中心とした6県で行われた令和3年度全国高等学校総合体育大会(輝け君の汗と涙 北信越総体2021)に5名のアカデミー生が参加しました。

レスリングはフリースタイル種目が行われ、高橋海大君が優勝、アーチェリーでは、伊藤魁晟君が645点で優勝しました。

【卓球】

全国中学校体育大会

8月25日から26日にかけて、栃木県宇都宮市の日環アリーナ栃木で第52回全国中学校卓球大会が開催されました。

アカデミーからは3名が出場し、男子シングルスで松島輝空君が2年生ながら優勝しました。渡部民人君は、アカデミーに入校して以来初めての試合で、緊張の色が見えましたが徐々にその緊張もほぐれて試合を進めていきましたが、惜しくもベスト8になりました。



男子シングルスで優勝した松島君

【ライフル射撃】

全国高等学校選手権大会

8月11日、広島県の安芸太田町で令和3年度第59回全国高等学校ライフル射撃選手権大会が開催されました。アカデミー生からは山田咲来さんが参加し、40発で競いあわれた本選では414.5点と本選大会新記録でファイナルに進出しました。

ファイナルは5発を250秒という時間制限がある中で行われましたが、本選と比べるとやや安定感にかけ、138.1点で7位となりました。安定したルーティンをどのような場面でも発揮できるようにしていくことが、今後の課題の1つとなりました。

【その他】

東京2020大会

7月23日から8月8日まで行われた東京2020大会には、選手583名、監督・コーチ476名の計1059名が参加し、リオ2016大会のメダル41個を大きく上回る、金27個、銀14個、銅17個の計58個のメダルを獲得、135の入賞となりました。

この東京2020大会には、アカデミーを修了したOB・OGの選手が10名参加しました。オリンピック競技大会にアカデミー修了生が参加したのは、2008年の開始以降、初めてとなります。アカデミー修了生は、レスリングの3期生向田真優さん、4期生乙黒拓斗君、6期生須崎優衣さんの金メダルを含む5つのメダルを獲得、4つの入賞となりました。

次のパリ2024大会まですでに3年を切っています。現役アカデミー生とともに、修了生の更なる活躍を応援しています。



八村塁選手とともに旗手を務めた須崎優衣さん



卓球女子団体で銀メダルを獲得した6期生の平野美宇さん



レスリング53kg級で優勝した向田さん

公益財団法人 日本オリンピック委員会
JOCエリートアカデミー事業
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
味の素ナショナルトレーニングセンター
TEL:03(5963)0355/FAX:03(5963)0356

JOCエリートアカデミーだよりは以下のHPでもご覧いただけます。
<https://www.joc.or.jp/training/ntc/eliteacademy.html>